令和７年度　稲沢市地域自立支援協議会　第２回就労支援部会　議事要旨

【日　時】令和７年７月１日（火）午後２時～午後３時30分
【場　所】稲沢市役所　東庁舎　１階　会議室８
【出席者】就労支援部会委員６名　事務局５名
【欠席者】なし
【議　事】
あいさつ
１　協議事項
（１）障害者の雇用環境の充実
（障害者雇用の普及促進と、雇用企業と福祉事業所の連携強化）
１）障害者雇用フォーラムについて（委員Ａから説明）
部会長　なにか問題点などはあるか。
委員Ａ　当事者交流会は、一宮市の部会に就労移行支援事業所が何件も入っているので、担当してもらおうと考えている。
事務局　分科会の部屋に何事業所くらい入れるか。
委員Ａ　もう一度研修室へ行き長机を並べてみないと、はっきりしたことは言えない。
事務局　このあたりは稲沢市で担当する。
委員Ａ　ありがたい。ブースを出すだけでなく、パネル展示をしてもいいと考えている。
事務局　シンポジウムでは手話通訳や要約筆記は準備するか。
委員Ａ　検討中である。
部会長　ボランティアでやってくれそうな気がするが。
事務局　ボランティアでは難しいと思われる。市が手話通訳者派遣や要約筆記者派遣でやっているものは３万円くらい。１人１時間3,000円。通訳１人で20分が限界なので、これだけの時間だと２人体制になると思う。
部会長　半田市のシンポジウムはどうだったのか。
委員Ａ　いなかったと思われる。
部会長　堅苦しくする必要もないので、皆で作り上げていくような感じで大学のサークルに協力していただくなどしてはどうか。
事務局　正式の通訳をお願いする場合はそれくらいの金額になる。杏和高校に手話サークルもあるが、平日開催ということもありなかなか難しい。
委員Ａ　要約筆記はどういう人に頼んでいるのか。
事務局　県に登録している人に依頼する。
委員Ａ　UDトークみたいなものを使ってできないか。
部会長　企業から協賛をもらって資金をまかなうのがベストではないか。
委員Ａ　すろーぷ主催のイベントとなると、労働局から指摘が入るのではないか不安はあ

る。

委員Ｂ　協賛の話が出たが、商工会の役員には稲沢市の様々なイベントへの協賛をお願いしているので、この場ですぐに引受けることはできない。

事務局　携帯電話で正確に文字起こしし、話すアプリがあればいい。

委員Ａ　それを大画面に出してできないか。

事務局　スクリーンを用意し、携帯電話と PC をつないでプロジェクターに投影すればいいので、不可能ではないと思われる。

部会長　それは持ち込みになるか。（会場で借用になる）

部会長　その予算も考えなければいけない。

事務局　今回は用意せず、今年来られたかたの意見を吸い上げてもいいかと思う。交流会はどのような感じで進行していくのか。誰か取り仕切る人がいるのか。

委員Ａ　取り仕切りは就労移行支援事業所のかたがやる予定。企業のほうは私が担当する。

委員Ａ　各会を全て予約制とする予定。半田市もそのようにしていた。

事務局　一般の参加者も予約制となるのか。（そのとおり）

事務局　通訳が必要なかたが事前に把握できれば用意できる。期間として一週間程度は必要となる。

委員Ａ　当日資料を配布するため、全員予約制にしようとなった。

部会長　壇上に垂幕をするか。

委員Ａ　１年しか使えないので垂幕はあきらめたが、半田市はあった。何年も開催しているため、予算化されている。ただ、今年は就労選択支援事業にシフトするそうだ。

部会長　動ける人がどれくらい必要なのか、次回の部会時でもいいが分かるといい。

委員Ａ　部会の人数が一宮市は多い。稲沢市での周知はお願いすることになると思う。
企業懇談会でハローワークに制度的な話などをしていただくことはで可能か。

委員Ａ　参加者は企業か。

委員Ａ　企業や就労移行支援の支援者だ。

委員Ｃ　当事者交流会のイメージがあまり出来ていなかった。

委員Ａ　ピアサポートのようなイメージで、当事者同士でお話いただくことで相乗効果が生まれたり、お互いに参考になるような知識を得たりすることを目的とする。

委員Ｃ　参加するのは企業ではないのか。

委員Ａ　企業懇談会は企業向け。当事者交流会は知的障害や精神障害がある当人同士が交流する場だ。事業所説明会は、障害福祉サービスの宣伝や、当事者の保護者が、こどもの進路を検討する機会になればいい。物販に行っていただいてもいい。

部会長　告知について、チラシを精神科クリニックや大きな病院に置いてもらうのはどうか。

事務局　就労支援部会の企画ということで、稲沢商工会の会報にチラシの挟込みを 2,200 部お願いできるか。（問題ない）

委員Ａ　祖父江と平和はOKか。
委員Ｂ　祖父江や平和は3か月に1回くらいの配布なので、タイミングが合わないと協力したくてもできないかもしれない。
委員Ａ　一宮市の商工会もやっていただけるかどうか、確認してみる。
委員Ｂ　定員が約500人の中ホールだが、8割は入らないと寂しく感じる。福祉まつりと締切りのタイミングをうまく合わせないといけないのではないか。
部会長　初回はある程度強引さも必要ではないか。
委員Ａ　様々なところに声かけをしていこうとは思っている。
事務局　ハローワークのほうでアナウンスはしていただけるか。
委員Ｃ　今のところ窓口に置くという話は聞いているが、それ以上どういう動きがとれるかはわからない。
事務局　津島市のハローワークにお願いするには、別で依頼したほうがいいか。
委員Ｃ　私から声かけさせていただく。
部会長　最初のあいさつを市議会議員のかたにお願いしたりはしないか。
委員Ａ　まだ決めていないが、タイムスケジュールがかなりタイトだ。
事務局　あいさつは減らしても問題ないと思われる。
部会長　周知の方法は皆さんのお知恵を借りながらやりたい。
委員Ａ　早くチラシを作りたいと思っているが、企業発表の会社が決まらないと作れない。
委員Ｃ　申込みできる企業は、稲沢市・一宮市以外も可能か。（可能である）
委員Ｃ　津島市のハローワークの雇用指導官も参加に興味を持たれると思うので同席してもいいか。（問題ない）
委員Ｄ　障害者雇用されている当事者に仕事を休んで参加協力を得たほうがいいのか。
委員Ａ　働いている人はなかなか難しい。就労移行を利用されている人であれば来てほしい。
部会長　チラシの完成の時期はいつを目途に考えているか。
委員Ａ　8月にはチラシが完成していないといけないと考えている。
事務局　当事者交流会は、知的障害と精神障害のかたで部屋が分かれているが、例えば身体障害の人はどちらに行ってもいいのか。（問題ない）
委員Ａ　高校にも一定数、障害者雇用について興味を持っている人がいる。コーディネーターあてに案内を出しておくと、15時以降なら生徒が行くこともできるかもしれない。
部会長　大学の学生へはどうか。
委員Ａ　大学にチラシの掲示をお願いすることはどうか。学校のボランティアはどうか。
部会長　大学の宣伝も兼ねることができれば依頼できるかもしれない。
委員Ａ　ボランティアを頼むと、スタッフとしての手は増えるが、ボランティアを統括する人が必要になる。

事務局　基本的には学生ボランティアを想定しているか。
委員Ａ　学生でもいいし、親の会などのかたでもいい。同友会で話を聞きつけたかたから申込みたいと連絡が入っており、ボランティアもやっているとのことだった。
事務局　企業以外に周知できる方法はないか。
委員Ｃ　稲沢まつりはどうか。
部会長　駅はどうか。
事務局　チラシ配りは厳しいが、チラシの掲示だけなら可能かもしれない。事務局から聞いてみる。
委員Ｃ　組織的な動員を仕組んでいかないといけない。
委員Ａ　特に企業に対しては念入りに働きかけないといけない。一般のかたからは、市のアンケートで、障害者雇用の理解促進についてニーズが高い面もあった。
部会長　学生が一番、人を動員する力があるかもしれない。
委員Ａ　Ａ型、Ｂ型事業所の利用者にもたくさん来てほしい。
部会長　うちの事業所は午前中に仕事を終わらせて連れて行く予定。
委員Ａ　半田市のシンポジウムでも事業所が利用者を連れてきて、皆で応援していた。
部会長　皆がこの企画を成功させようという気があれば、うまくいくと思う。
委員Ａ　来てほしい本当のターゲットは、福祉から就労への利用者と、障害者雇用する企業だ。保護者も当事者を家庭でもサポートしてほしい。
部会長　就労支援事業所連絡会で親御さんと来て、と案内すると埋まるのではないか。
成功するよう皆さんにもご協力願いたい。

２）その他の活動について

・福祉まつりについて／10 月 25 日（土）10：00～15：30

委員Ａ　TIY(株)は体験で部品を出せているが、他の企業は、部品などは出せないと思う。
部会長　VR の件は答えをもらっていないので、もう一度確認してみる。
委員Ａ　広島県の就労移行支援事業所で、VR を活用して発達障害体験をやっているので、聞いてみたい。福祉まつりの体験の場が、障害に関する体験であれば、ただバラバラに体験してもらうのではなく、総合的に企画できれば楽しんでもらえるのではないか。
事務局　去年どおりで進めてよいか。（異議なし）

・いなざわ特別支援学校見学会について

事務局　学校見学会は、昨年に引き続き継続だったと思うので、同じ時期でいいか。
委員Ｄ　おそらく 12 月 2 日（火）午前になると思う。現在、新築校舎を建設中で、それに伴って既存校舎も随時工事が入るが、予定では終わっている頃だと思う。
事務局　学校見学会のチラシを作成し、様々なところで周知してよいか。（問題ない）

（２） 就労選択支援事業について

・ワーキングチーム会議について　６月 26 日（木）開催内容について報告

・事業申請の進捗等について、部会長から報告

事務局　令和６年度の支給決定内容からみると、対象は 10～15 名程度。もちろん人数が増える可能性もあると思うが、実際に数字を出してみると少ない印象だ。

部会長　それなら１カ所で事足りるのではないか。

事務局　去年の高等部３年生のかたが 10 名程度で、就労経験のないかたで就労継続支援Ｂ型を使いたいかたが２ヵ月に１名くらいで、15 名ほど。近隣の愛西市や津島市は、現時点で就労選択支援を実施する事業所は来年度から実施予定。ひと月換算すると少ないかもしれない。相談員を通じてやってみようという人や、特別支援学校でも全学年が利用できるようになるので、増えていくかもしれない。

委員Ｃ　今年度については、特別支援学校から就労選択支援を受ける人はほぼいない。ただ夏に間に合わなかった人と、高１、高２は出てくる可能性はある。

事務局　現時点で、就労移行アセスメントとして申請が出てきたのは ３ 名。特別支援学校は重度のかたもいて卒業後は、生活介護の利用を前提で動かれている場合も多く、保護者から就労継続支援Ｂ型は考えていないと言われることがある。

委員Ｃ　Ｂ型希望は 16～20 名程で、稲沢の方はそのうちの３分の１。高１、高２についてはＡ型利用希望のかたも就労選択支援に出てくると思うのでもう少し多くなるかもしれない。厚生労働省から高１、高２については児相への意見書の問合わせを考慮して、ある程度取りまとめてするようにと言われている。

部会長　スタッフを入れてきちんとできるような体制づくりをしようと思っている。
稲沢市から私たちが先導者になるのであれば、いいモデルが稲沢にあるねと言っていただけるようにしたい。

２　その他

特になし